



たかゆき  
**小林鷹之からの手紙**  
 「国を守る」責任



絆を力に。2017年 Vol.37 「討議資料」  
 防衛大臣政務官／衆議院議員  
 自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行  
 (千葉市花見川区・習志野市・八千代市)

# 活動報告

HP  
[kobayashi-takayuki.jp](http://kobayashi-takayuki.jp)

twitter  
[twitter.com/kobahawk](https://twitter.com/kobahawk) Facebook  
[www.facebook.com/hawk.kobayashi](https://www.facebook.com/hawk.kobayashi)



小林鷹之後援会だより  
**花園地区後援会**

「大賀ハスふるりの会」の仲間が、ハス圃場の管理に頑張っています。  
**花園ハス祭り「観蓮会」**  
 日時：平成29年7月15日(土)  
 会場：元東大緑地植物実験所  
 是非ご来場ください。(後援会幹事長 小高)

①護衛艦「かが」引渡式・自衛隊艦旗授与式②熊本地震犠牲者追悼式に出席③日本最西端の与那国駐屯地開設1周年記念行事で訓示④外務・内閣等各委員会で答弁⑤第21回東京ディフェンスフォーラムにて、英語でオープニングスピーチ⑥(左)海上自衛隊練習機TC-90のフィリピンへの移転式典で訓示(右)訓練中のフィリピン軍パイロット⑦長崎県対馬駐屯地視察⑧(上)「小林鷹之を囲む公認会計士の会」設立総会(下)「税理士による小林鷹之後援会」総会⑨東京で「明日の日本を語る会」を開催。二階幹事長や4人の大臣を含め、多くの皆様にお越し頂きました⑩週末は、各地で国政報告会や地元行事に参加⑪八千代市民会館で、橋本聖子 参議院自民党議員会長の講演会を主催

橋本聖子氏 講演会

**小林鷹之** 東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。財務省課長補佐、外交官を経て現在衆議院議員2期目。防衛大臣政務官、自民党青年局顧問等を務める。一女の父。

*Profile*

地元事務所 〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南1-3-5 YYビル1階  
 TEL 047-409-5842 FAX 047-409-5843  
 国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館417号室  
 TEL 03-3508-7617 FAX 03-3508-3997

## 「国を守る」責任



国会も後半戦。安全保障環境が一層厳しくなる中、防衛大臣政務官として身の引き締まる思いで職務に邁進しています。

最近、地元でも「北朝鮮や韓国はどうなるの?」「日本は大丈夫?」との声を数多く頂きます。厳しい現状の下で国を守るために一体何をすべきなのか?もはや一国だけで平和を守り抜ける時代ではありません。強固な日米同盟や、民主主義や法の支配といった価値を共有する近隣諸国との連携も必要です。ただし、こうした連携の大前提は、自分の国を自分で守り抜く意思と能力を更に高めていくことです。

現場の自衛官がどんな思いをもって、24時間365日、国防の任務に励んでいるのか。この9か月間は、できる限り足を運んでその思いに触れることを心がけてまいりました。例えば、

○昨年12月に南スーダンから北海道に戻ってきたPKO施設部隊の帰国式。派遣中に生まれた赤ちゃんを抱きしめる隊員の姿がありました。隊員と奥様が小さな生命に注ぐまなざしを見て、深く感じるところがありました。

○出張で3月に訪れた対馬では、対岸の朝鮮半島・釜山までわずか50キロ。4月に訪れた与那国島(日本最西端)では、台湾までわずか110キロ。まさに国境の最前線で、陸・

海・空それぞれの部隊が、決して恵まれていないとは言えない環境の中で必死に頑張る姿がありました。

○石川県小松基地ではF15に搭乗。華やかなパイロットというイメージとはかけ離れた過酷な世界。重力加速度、いわゆる「G」のすさまじい負荷に耐えながら領空を守る隊員、そして、その戦闘機を地上で支える多くの隊員の労苦を垣間見ました。

現場の隊員の思いに応え、防衛力を高めていくためには、予算措置や国民の皆様のご理解が不可欠です。大変な課題だからこそしつかり取り組んでまいります。

そして、私がつましく強く意識しているのは、「国を守る」ということを幅広く捉えるということ。です。

防衛省・自衛隊の任務は、あくまで安全保障の一部です。本来の意味で国を守り抜くためには、エネルギー、食糧、通商、財政さまざまな切り口で安全保障を捉える必要があります。

例えば、今国会で経済産業省が提出した「外国為替及び外国貿易法の一部改正」。我が国の優れた機微な技術が他国に安易に流出しないように厳格に管理するためのものです。東芝のような、単なる一企業としてではなく、国の根幹の技術に関わる企業の現状を踏まえ、政治家として国益を

守っていくことは極めて重要なことです。

また、経済力と国防力の相関関係も無視することはできません。貿易・投資面では米国抜きのTPPを進めていくことが注目を集めています。アジア太平洋のルール作りに日本が主体的に関与していくのは勿論のことですが、これとは別に、私がか以前から注目しているのは「通貨」の問題です。

歴史を振り返れば、英国から米国に覇権が移った契機は、英ポンドから米ドルへの基軸通貨の交代でした。現在、世界の基軸通貨である米ドルに対抗し、いつか取って代わろうとする近隣国の中長期的な意図を感じますし、そのための布石が着々と打たれていると思われ

ます。

「国を守る」ことは、「国の信用」を守ることもあります。国の信用と財政の持続可能性が表裏一体であるという厳しい現実も決して忘れてはなりません。

容易ではない時代の流れの中で、常に複眼的な視点を持ち、中長期的なビジョンの下に物事を捉えられる政治家として成長したいと思えます。今後とも研鑽と挑戦を続けてまいりますのでご指導よろしくお願

平成二十九年五月吉日

防衛大臣政務官  
系誠院議員

小林鷹之

